

## 第2学年4組 算数科学習指導案

1 単元 1000をこえる数（本時1／7）

2 本時の目標

100のまとまりが10個で1000になることをふまえて、1000を超える数の表し方や仕組みが理解できる。 （知識・技能）

3 展開

| 段階         | 学習活動  | 教師の活動・支援  |
|------------|---|---|
| 導入<br>(5)  | 1 提示された紙の数を予想する。<br>・いくつあるのかな。<br>・1000より大きそうだ。   | ・2356枚の紙を示す。<br>・「紙は何枚あるのかな。」と問い、課題へとつなげる。  |
| 課題<br>(1)  | 2 本時の学習課題を把握する。   | ・本時の課題を板書する。  |
| 展開<br>(32) | 1000をこえる紙の数をしらべよう。  |   |
|            | 3 100のまとまりの数を確認して1000のまとまりが何個つくれるのか考える。<br>・100のまとまりが10個で1000だから  | ・100枚ごとにまとめた紙の束を提示して1000のまとまりが何個できるかを問う。<br>・100のまとまりが10個で1000になることを確認する。   |
|            | 4 グループの中で紙の束を数え100のまとまりの束に注目して紙の数の表し方を考える。<br>・100のまとまりが23個ある。<br>・1000のまとまりが2個できる。<br>・残りは100が3個、10が5個、1が6個だから356。             | ・グループに席を移動させ、紙の束を配る。<br>「100のまとまりは何個ありますか。」<br>「1000のまとまりは何個できますか。」<br>・うまく数えられない子どものために数を位ごとにまとめた紙の束の絵を掲示する。<br>・位の順を追って数え二千三百五十六ということを知らせる。 |
|            | 5 1000を超える数の読み方を知る。<br>・1000のまとまりが2個で二千<br>・二千と三百五十六で、二千三百五十六になる。<br>・1000のまとまりが3個だと三千になる。<br>・1000のまとまりが4個だと四千、5個だと五千・・・9個だと九千 | ・位取り板を使い、束のまとまりと位とを対応させて新たに千の位を教える。<br>・「1000を3個集めた数は、どのように言いますか」<br>・千、二千、三千、四千・・・九千と順番に読み方を示す。  |
| 整理<br>(7)  | 6 例題を解く。<br>7 分かったことをノートにまとめる。  | ・例題を出題する。<br>・机間指導によりまとめができた児童を指名し発表させる。  |

4 評価 1000をこえる数の構成と読み方を理解することができたか。

（活動3、4、5、6から）